いわて未来づくり機構だより~第5号~

発行日　平成22年6月25日

「いわて未来づくり機構」は、県内各界、各層の組織の横断的かつ意欲ある「参画」「連携」を実現し、さらに、各組織の智慧を結集し、スピード感を持って「実践」することにより、地域の総合的な発展を目指す新しいネットワークです。

会員の皆様には、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。　いわて未来づくり機構はみなさまの御支援・御協力を賜り、発足より２年を迎えることができました。

本号では、５月25日に開催されました平成22年度第１回ラウンドテーブル及び総会の内容を中心に報告いたします。

今後とも、機構の活動にご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

事業報告

H22第１回ラウンドテーブル

5月25日（火）14時30分から、ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにおいて、平成22年度第1回ラウンドテーブルが開催されました。

先に退任の申し出のあった、玉山哲盛岡商工会議所副会頭、元持(社)岩手経済同友会副代表幹事の退任が承認されました。

続いて、盛岡商工会議所副会頭の谷村邦久社長と、岩手県立大学の中村慶久学長が、新たなメンバーとして承認されました。

以降に実施された事業などについて報告が行われました。

①「緊急アクションプラン」の実施結果等について

② 買うなら岩手のもの運動について

③ 産学官連携拠点への応募について

産学官連携拠点を選定し、それらに関係府省、自治体等の各種の施策を有機的に組み合わせて総合的・集中的に実施することにより、人材育成・基礎研究から実用化・事業化までの活動を産学官が有機的に連携して推進し、持続的・発展的にイノベーションを創出する仕組み、いわゆる「イノベーション・エコシステム」の構築を図るものである。

H21総会

第1部の総会では、共同代表である達増岩手県知事からのあいさつに続いて、総会に先立って開催されたラウンドテーブルにおいて、藤井学長のラウンドテーブルメンバー参加と共同代表への就任が承認されたことが報告され、藤井学長が就任のあいさつを行いました。

次に、平成20年度実績報告及び平成21年度事業計画を岩手大学小野寺教授から説明し、参会のみなさまから承認いただきました。

さらに、各作業部会の座長から平成20年度実績報告と平成21年度事業計画を説明いたしました。

第2部として、日本銀行仙台支店　福田支店長より、「最近の金融経済情勢」と題して基調講演を行っていただきました。

「東北の企業に対する助言　企業には新しい経営環境のもとでの事業採算の再評価と必要に応じて事業再編や、投資計画の見直し等の経営判断が求められるものである。」

なお、平成20年度実績報告と平成21年度事業計画は、機構のホームページでご覧いただけます。



緊急アクションプランの実施結果等

① 工場見学会の開催

雇用情勢が悪化する一方で、採用意欲がある地元企業への理解を深め、大学生と地元企業とのマッチングを支援するため、工場見学会を行ったところ、延べ50名の学生の参加がありました。

第1回 2月19日【シチズン東北㈱、㈱東北佐竹製作所、㈱ミヤノ北上工場】

第2回 2月23日【和同産業㈱、サンポット㈱、㈱デンロコーポレーション東北ガルバーセンター】

第3回 2月27日【明治製菓㈱北上工場、㈱岩手ヤクルト工場、㈱アジテック】

② 中小企業緊急雇用安定助成金制度説明会の開催

中小企業緊急雇用安定助成金は、経営状態の悪化した企業が、従業員に休業、教育訓練又は出向をさせた場合に、手当若しくは賃金等の一部が助成されるものであり、昨今その利用が増えているところです。しかし、対象となる教育訓練に制約があるなど、留意事項があることから、平成21年2月24日、岩手県立大学アイーナキャンパスにおいて説明会を開催したところ、約40名の参加がありました。

今後の予定

岩手大学フェア2009

6月12日（金）～6月14日（日）東京銀座の「いわて銀河プラザ」において開催します。岩手大学の協力により生まれた県内企業の製品を展示・販売します。

テクノフェアはなまき2009

10月23日（金）～10月25日（日）花巻市総合体育館を会場に開催されます。全国農商工連携フォーラム in はなまき(10/24)やいわて県南地域ものづくりプラザ(10/23)なども併設されます。

第2回ラウンドテーブル

次回のラウンドテーブルは9月頃を予定しております。詳細が決まりましたら、ホームページでお知らせします。

買うなら岩手のもの運動について

いわて未来づくり機構では、県が始めた「買うなら岩手のもの」運動の趣旨に賛同し、2月9日のラウンドテーブルにおいて、機構として県民運動とするための取組を進めていくことを決定したところです。

機構では、この運動を「岩手に住む人に、岩手発の優れたモノ（商品、技術、サービスなど）を理解していただくための情報戦略」と捉えています。

① ロゴマークの公募と選定

運動を盛り上げていくため、運動のロゴマークの公募を行ったところ、北は青森県から南は福岡県まで、計41名60作品の応募がありました。

採用作品



「岩手の「い」の字を買い物袋に見立て、中に岩手県民の笑顔を詰め込みました。配色は「青」「緑」「朱赤」で、それぞれ「海産物」「農産物」「工芸・工業製品」を表しています。岩手県のすぐれた商品を買っていただくことで、いわてが元気で笑顔溢れるまちになる姿を表現しました。」

② 県内キャラバンの実施

「買うなら岩手のもの運動」の一環として、県内で生産された「岩手のモノ」（農林水産物、県産品、工業製品、サービス等）の利用拡大のための普及活動（キャラバン）を、ＮＰＯ法人「岩手ふるさとボランティア」のご協力をいただき実施しました。

③ のぼりの作成と販売

運動の周知を図るため、のぼりを作成し、１枚1,575円で販売することとしました。

詳しくはアイーナ事務局までお問い合せください。



事務局からのお知らせ

会員各機関における代表者及びご担当者名、メールアドレス等に変更がございましたら、アイーナ事務局の佐藤までお知らせくださるようお願いします。

電　話：019-606-1775（FAX兼用）　E-mail：daihyo@iwatemirai.com

ホームページ　http://iwatemirai.com/　会員用ホームページ　http://iwatemirai.com/xoops/